

令和7年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:11月7日(金)

会場:河内コミュニティセンター

参加者数:40人

◎テーマ①:「小規模特認校」設置の考え方

【趣旨説明(河内まちづくり連合会)】

小規模特認校の基本的な考え方の中に、大きな集団で生活・学習になじみにくい児童を対象とあるが、これだと不登校児童もしくは不登校の傾向にある児童などが対象の学校と読み取れる。これまでの自由学区制の選択肢の中の一つとし、少人数の学校を希望する児童が対象としてはどうか。地域が積極的に支える学校づくりを魅力にしてはどうか。河内地区では小規模特認校の開校に全面的に協力する。また、開校後も、全国的に誇れる小学校となるよう、市と共に、子どもたちの未来のためにすばらしい教育環境を整備することを約束する。また、具体的な再配置後の地域づくりについて市から積極的な提案をお願いしたい。

参加者の発言	市の発言	備考
	<p>・小規模特認校の基本的な考え方として、大きな集団での生活・学習になじみにくい児童を対象に、地域資源を生かし、地域との交流を大切にしながら、少人数で特色ある教育活動を展開する学びの学校である。それは、不登校や不登校傾向ということではなく、集団の中で学ぶことにベースが合わないとか、少人数の方が自分の思いを発揮でき、学びが充実する児童が対象である。対象の児童については、在校の校長先生から意見を聞くとともに、専門的な見地から入校検討委員会で検討する。自分の思いが発揮できる環境を整え、三次の魅力を与え、三次とつながり続けたいと思う子どもを育てていく。小規模特認校の基本的な考え方の中に、一人ひとりのペースを大事にすること、少人数を生かした個別最適な学びを進めること、多様なヒトやモノ、コトとの出会いがある教育を充実すること、そして、ICTを活用した教育を充実させることをお示ししている。</p> <p>・今後、学びの受け皿をしっかりと確保していくことは、非常に重要である。小規模特認校について、市の定義と地域の考えに認識の違いがある。</p>	
<p>市が整備されようとしている小規模特認校と地域が思っているものに違いがあることは認識しているが、地域の思いを実現してほしい。小規模特認校を集団になじめないという定義ではなく、小規模の環境で子どもを学び育てたいという思いの保護者や子どもたちの学校してほしい。三次市の環境や自然豊かな部分に興味を持たれ、地域の人と関わりながら暮らしたいと、移住を希望される方もいる。小規模校を選べるといっても、今の時代には必要である。</p>	<p>地域の方の地域づくりを含めた考えは理解できる。一方で、教育委員会は、学校教育の中で、子どもたちをどう育てていくか、社会で自立していく力をどうつけていくか、などを基盤として考えている。三次市全体の教育の魅力化という未来志向での方針である。どんな地域であっても、必要な力がつき、いろいろな学びや部活動が思い切りできて、たくさんの友達と関わり、いろいろなことに挑戦できる環境を、三次市全体でつくっていく。そこに、今はなじめない子や学校に行きづらい子も、学校へ来て学べるようにしていくことを、あわせて考えていく。</p>	
<p>・小規模特認校は、判定委員会により河内住民の子が1人もいないこともあり得る。そうしたときに、学校と地域の連携などが今と同じようにできるか不安である。</p> <p>・10人以上という基準が確保できるのか。</p>	<p>地元の子が1人もいないことは、想定している。中学校対象の学びの多様化学校についても同様である。三次の子どもとして、一緒に地域の中で関わり、応援していただけるような学校づくりを、協議しながら進めていく必要がある。</p>	
<p>小規模特認校は、「学びの多様化学校」の小中学校版か。大人数の中での教育が必要であり、河内小学校は少人数のため、教育が十分ではないというように聞こえる。</p>	<p>小規模特認校は、学びの多様化学校とは違う。学びの多様化学校の定義は、不登校の生徒を対象にする学校である。</p>	
<p>・歩道の草が伸びすぎているために、自転車通学の子どもたちは、車道を通るため危ない。通学路や学校が整備されている環境の中で育つことで、三次市へ残りたいと思ってくれる。</p> <p>・人数など、国の基準にとらわれず、三次市の特色を生かした小・中学校をつくってほしい。</p>	<p>通学路の点検について、できる限りの対応をしている。現地を確認する。</p>	
<p>行政と地域の意見がかみ合っていない。市民の意見を聞き、突き合わせて取り組むべきである。主役の子どもたちが蚊帳の外で、大人たちが進めているように思える。地域の人も含めて、みんな子どもたちを教育していくべきである。</p>	<p>・いろいろな方が参画し、協議を経て策定した「あり方の基本方針」を、お示ししている。また、様々な意見も随時、内部共有し、連携している。</p> <p>・入校検討委員会については、制度設計中である。様々な見地から検討していく必要がある。いろいろな子どもたちと一緒に学んでいく環境は大事な部分である。どの地域のどの学校も、一生懸命教育活動を行い、地域で盛り上げ、応援していただいている。コミュニティ・スクールも、すべての校区で設置をさせていただき、保護者や地域の皆さんと、関わっていく体制をつくっている。他地域の情報を、今後しっかりと伝えていき、その中で、現在示している小規模特認校の基本的な考え方のもとで、進めていく。</p>	
<p>・子育て世代と話をした。市の方針は理解しているつもりである。不登校や不登校予備軍の子どものための学校と読み取れる。そのような目で見られる学校に通わせる保護者がいるのか。入校検討委員会の判定は、現状を知らない人が、基準により判定される。入ることができない子はどうか。</p> <p>・河内小学校は少人数だが、人数の多い中学校へ行っても十分対応できており、河内小学校でよかったと思う。小規模特認校と認定してもらえれば、地元以外の子や不登校の子も全部受けとめて、すばらしい学校にできる自信がある。</p>		
<p>子どもに障害があり、河内小学校への通学を希望しているが、庄原市の支援学校を勧められている。遠距離通学は体へ負担がかかるため、検討してほしい。</p>	<p>個別に話をさせていただいている。丁寧にやりとりをさせていただきたい。</p>	
<p>・なじみにくい子という言葉に、マイナスのイメージがつき、集団になじむ子が正しくて、そこからみ出た子がおかしい、という前提に、違和感を抱く。集団になじめない子という表現はやめてほしい。それぞれの個性がある。一人ひとりを大切にしたい。小規模な学校をつくってほしい。</p> <p>・言葉は社会性を持っている。一人ひとりを大切にすることを文字にしてほしい。</p>	<p>一人ひとりが違うという認識が大切である。集団がよくて、学校に行けないことが良くないとしているものではない。社会生活を営む時には、一定の集団や周りとの関わりは必要となる。一人ひとり違うということを認めたうえで、集団で過ごすことの重要性を考えていき、しっかりと学校教育や環境をつくっていく。今後も丁寧に対応していく。</p>	
<p>・基本方針は変えない、と教育委員会から回答があった。基本方針を決めるための策定委員会では、地域住民の意見を聞くという意見や、市教育委員会と地域の考えに大きな違いがあるかもしれないという意見は出たのか。</p> <p>・皆さんの意見を汲み取っていただき、市教育委員会と保護者と地域とが一体となって進めてほしい。地域とともに学校を育ててほしい。</p>	<p>地域や保護者の皆さんと話をしながら、丁寧に進めていくことや、理解と協力を得て進めていくことを確認し、この基本方針を定めている。基本方針を繰り返し説明し、今後も丁寧に対応していく。</p>	